

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	御荘町立御荘中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	22
生徒数	87	94	87	2	270	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、共に高め合う生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

以下の教科を中心として、全学年・全教科で研究に取り組んでいる。
 数学科(2・3年生...少人数習熟度別)
 意欲面・理解面ともに差が出やすい教科であるため。また、成果を検証しやすい教科であるため。
 英語科(1年生...少人数、2年生...習熟度別、3年生...少人数習熟度別)
 理解度に差が出やすい教科であるとともに、コミュニケーション能力・表現力を育成する研究を行うため。
 国語科(1年生...少人数)
 これまでの研究成果と生徒に対する実態調査の結果から、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。
 社会科(1・2・3年生...T・T)
 生徒の調べ学習で、きめ細かな指導を行うため。

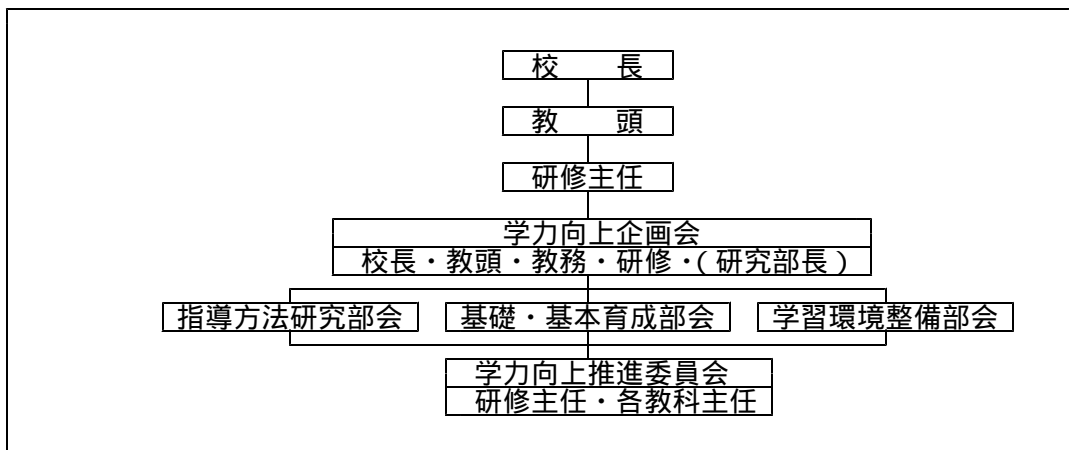
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 「自ら学び、共に高め合う生徒の育成」 研究の見通し(仮説)
	(1) 個に応じたきめ細かな指導を行うことによって、基礎・基本を身につけ、自ら学ぼうとする生徒が育成できるであろう。 (2) 「共に学び、高め合う」学習集団に支えられた授業や、個が生きる集団活動を展開することによって、主体的に活動し、のびのびと自己表現しようとする生徒を育成できるであろう。
14年度	研究の内容・方法 (1) 個に応じた指導方法の工夫 ア 英語科、数学科における習熟度別指導、少人数指導の研究 イ 発展的・補足的な学習の研究 (2) 基礎・基本の育成 ア 学習の基礎・基本の育成 ・ 実態調査...学力診断テスト分析 ・ 校内コンテストの実施。 イ 学習習慣の基礎・基本の育成 ・ 実態調査...学習習慣、学習意欲 ・ 書く力の育成(漢字の使用) ・ 朝読書の実施 (3) 学習の環境整備 ア 高め合う集団づくり イ 表現力の育成

平成 15 年 度	<p>テーマ 「自ら学び、共に高め合う生徒の育成」 研究の見通し 学力の基礎・基本を身につける方法を中心に研究を行うことにした。 研究の内容・方法</p> <p>(1) 指導方法の研究 ア 個に応じた指導の工夫 ・ 学習形態に応じた授業展開や教材の工夫 ・ 授業改善のための「生徒による授業評価」の実施 イ 選択教科における発展的・補足的な学習の研究 ウ 学び合う場面づくり ・ 「話し方マニュアル」を作成し、小集団を活用した授業の展開</p> <p>(2) 基礎・基本の育成 ア 「読み・書く」力の育成 ・ 漢字と英単語の校内コンテスト ・ 教科における「読み」の重視 イ 望ましい生活習慣や態度の育成 ・ 第2回生活調査と分析 ウ 家庭との連携による生活習慣の定着 ・ 通信「あすなる」や参観日等を利用した家庭への啓発活動</p> <p>(3) 学習環境の整備 ア 「学びの時間」の設定 イ 共に高め合う集団づくり ウ 表現力の育成</p> <p>変更点について 基本的には実践内容はほぼ同じだが、研究組織等を再編成したため、若干表現が異なる。</p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 「自ら学び、共に高め合う生徒の育成」 研究の見通し ・ 現時点では、平成16年度も基本的に同じである。研究内容の見直しや検証をしながら改良を加え、研究の質を高めていきたい。 ・ 表現力の育成や意欲面の喚起、小学校や家庭との連携による基礎・基本の定着を重点に研究を進める予定である。</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 学習形態を生かした指導の改善がなされ、生徒の理解が深まった。
- 数学科では、発展コースは教科書内容の学習の後、問題解決的で多様な解法ができる問題を提示し、理解を深めることができた。基礎コースでは、導入段階で具体物を使い、数量関係が十分イメージ化できるようになってから抽象化に入る工夫をして理解が良くなった。また、基本的な問題を精選して反復することで理解が定着し、意欲面でも効果があった。評価の面では、単元始めのレディネステスト、毎時間の小テスト(1~2問の基本的事項と自己評価と感想)と補習、単元後の個人カルテ作成を実施した。
 - 英語科では、基本を「読み」と捉え、発展コースでは本文の暗唱を、基礎コースでは本文をすらすらと読めることを目標に取り組みせ、基礎学力の定着と意欲化に成功している。また、生徒の実態に合わせて、難易度に変化を持たせてきた。
 - 英語科・数学科ともに、学力差の大きくなる2・3年生には習熟度別の少人数指導が適していることがわかった。現3年生の数学の学力診断テストを例にとると、県平均との差が、4月は+1.0だったが、9月は+5.4に伸びた。現3年生には本年度から少人数指導を取り入れており、その効果と考えられる。
 - 学力の推移について、毎学期始めの学力診断テスト合計点を県平均と比較すると、少しずつ差が大きくなっていった。(下表参照)各教科の授業改善が進み、学力(理解面)が向上しつつあると推察される。学年差等を分析した結果、学習訓練や学級の雰囲気に関係することがわかった。

実施時期	平成14年			平成15年	
	4月	9月	1月	4月	9月
現1年				+ 10.7	+ 28.6
現2年	+ 10.2	+ 2.0	+ 13.7	+ 15.1	+ 15.9
現3年	+ 19.7	+ 17.5	+ 32.4	+ 14.9	+ 30.9

- (2) 学力の大変低い生徒は、授業だけでは個に応じられないことがわかったので、「学びの時間」(週1回30分、全校生徒)を設定し、希望者には個別指導を行ってきた。学期ごとのアンケートでは、75%以上の生徒が意欲的に学習している。11月には、小学校算数の「つまずきチェックテスト」を実施し、3学期からは個々のつまずきの始まりまでさかのぼって支援している。
- (3) 朝読書を続けて3年目になり、読書習慣は定着した。現在、生徒一人当たりの読書量は一日平均約17Pで、15%の生徒は週1冊以上の本を読んでいる。
- (4) 校内コンテストは試行錯誤の末、漢字と英単語のみに絞り、意欲を高めることができた。
- (5) 授業の反省と改善の手がかりとするため、2学期末に生徒による授業評価を実施した。声の大きさや説明のわかりやすさ等7項目のアンケートをとった結果、どの項目も80%以上の生徒が「大変良い」または「良い」の評価であった。授業改善が進んでいるようである。生徒の意見を今後の授業改善に生かしたい。

2. 今後の課題

- (1) 少人数指導は、教師にとって以下のような物理的な課題がある。
- 複数の教師が、共通理解(いつどこで何を使ってどう評価するかなど)したり、進度を合わせたりするための時間の確保が難しい。
 - 空き時間が少なくなり、教材研究の時間が不足する。
 - 週時間割の編成・変更時に配慮すべきことが多く、教務に負担がかかる。
 - 教室が不足する。
 - 研究に時間をとられ、3学期は学習内容を消化することで精一杯になった。学習の理解面でも以下の面が挙げられている。
 - 意見が単調になりがちで、多様な意見の練り合いができていない。(数学科の領域によって、国語科)
 - 少人数習熟度別指導の場合、学力の低いコースの生徒が良い手本に触れる機会がなく、目標や希望を持ちにくい。
- 2年間の研究で、教材もそろいつつあるので、単元ごとの計画をしっかりと立て、効率化に努めたい。
- また、数学科においては、領域によって一斉授業と少人数指導を組み合わせ、成果のあがる方法を模索している。評価方法についても、個人カルテから生徒が自分でフィードバックできるように改善したり、観点別評価から評定への総括が簡単できる方法の研究に努めたりしている。

- (2) 学習場面における表現力や意欲面が劣っているため、次のことに努めたい。
- ア 授業を改善し、わかる、楽しい授業を実践する。そのために、生徒の活動を生かす工夫をし、評価を生かしていく。
 - イ 学級集団づくりに努める。
 - ウ 学校行事を見直し、生徒の主体性をより発揮させる。
- (3) 生活調査から、家庭学習時間は平均1時間以上となり、昨年度より多くなった。この原因は宿題が増えたためである。しかし、節度ある規則正しい生活ができていない生徒や、手伝いをしない生徒が多いこともわかった。保護者や小学校と連携し、学習習慣や基本的な生活習慣をつけていきたい。

学力把握のための学校としての取組

学力診断テストの比較

目的 理解面での学力を確認、分析するため

内容 本校と県平均との比較、正答率の分析

時期 毎年4月、9月、1月

生活リズム調査

目的 生徒の生活実態を知り、家庭と連携して改善を図るため

内容 生徒・保護者に家庭学習やテレビ等の時間、就寝等の時刻など調査

時期 11月（普通日とテスト期間中）

「学びの時間」や「朝読書」に対する意識調査

目的 研究実践の効果を検証、改善の手がかりとするため

内容 心情面や能力面のアンケート

時期 「学びの時間」毎学期、「朝読書」年1回

小学校算数内容の習熟調査

目的 個人のつまずきの発見と「学びの時間」等補習に活用

内容 「陰山・小河式つまずきチェックテスト」

時期 本年度11月、来年度4月予定

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 研究会、説明会等
- 会名 学力向上フロンティア事業 第3回研究指定校公開授業
 - 日時 平成15年6月17日
 - 場所 御荘町立御荘中学校
 - 対象 地区協議会員、保護者、一般小中学校教員
- 会名 学力向上フロンティア事業の取組の説明
- 日時 平成16年2月18日、4月予定
 - 場所 御荘町立御荘中学校
 - 対象 御荘中学校保護者
 - 目的 本校の実践への理解と協力を得るため
- 会名 学力向上フロンティア事業 研究指定校 研究発表会
- 日時 平成16年11月予定
 - 場所 御荘町立御荘中学校
 - 対象 フロンティア協議会、郡内全小中学校、御荘中学校保護者
 - 目的 研究の最終報告
- (2) HP、パンフレット等
- ・ HPでの公開
 - ・ フロンティア通信「あすなる」の発行
- (3) 研究成果普及のための活動
- ・ 要請により、他校の校内研修会に参加、発表（一本松中学校）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無